



2024年6月25日

各 位

会 社 名 西川ゴム工業株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 小川 秀樹
(コード番号 5161 東証スタンダード)
問 合 せ 先 常務取締役管理統括本部長 休石 佳司
(TEL : 082-237-9371)

当社連結子会社における棚卸資産の計算等に関する調査の進捗及び 2024年3月期有価証券報告書の提出期限延長申請の検討に関するお知らせ

当社は、2024年5月29日に適時開示しました「当社連結子会社における棚卸資産の計算等に関する調査のお知らせ」にてお知らせしましたとおり、当社の連結子会社（ニシカワ・シーリング・システムズ・メキシコ S.A. DE C.V.）（以下、「本件子会社」といいます。）において棚卸資産の計算等に関して疑義のある事象（以下、「本件」といいます。）が存することが判明したことを受け、社内調査を行っておりましたが、本日時点で調査が終了しておりません。これに伴い、2024年3月期有価証券報告書の提出期限延長申請を検討しておりますので、お知らせいたします。このような事態が発生したことは誠に遺憾であり、株主・投資家の皆様をはじめとする関係者の皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけしますことを心よりお詫び申し上げます。なお、現時点までの調査の進捗は下記のとおりとなっております。

記

1. 調査の進捗

当社は2024年4月26日、本件子会社の2023年12月期の棚卸資産について、貸借対照表残高が在庫明細に対して56.5百万ペソ（約5億円）過大になっているとの連絡を本件子会社から受け、同日、事実関係を確認する初期的な社内調査を開始いたしました。

社内調査の過程で、5月7日、在庫管理システム上での原材料費の計算に疑義が生じたため、本件子会社において再確認したところ、棚卸資産全体の差異が大幅に縮小する試算結果が出たことから、当社の2024年3月期の連結決算への影響は僅少であるとの判断のもと、5月10日に予定通り、当社の2024年3月期の連結決算発表を実施いたしました。

しかしながら、さらに継続調査を進めていたところ、5月15日に、本件子会社の一部棚卸資産の計算に使用されていた単価に誤りがある可能性があることが判明したため、当社は調査実績が豊富なデロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社に依頼し、5月20日より社内調査体制を強化しました。

その後、調査対象期間を本件子会社の第 11 から 13 期事業年度（2021 年 12 月期から 2023 年 12 月期）とし、本来あるべき棚卸資産残高（以下、「あるべき数値」といいます。）の算定を進めてまいりましたが、前記のとおり、在庫管理システム上の数値の信頼性に疑義があることから、手作業で証憑の数値を確認し、在庫管理システムに入力された数値が適切かどうかも含めて確認するなど、現時点であるべき数値の算定が完了しておりません。当社は、あるべき数値の算定を引き続き実施しております。

2. 2024 年 3 月期有価証券報告書への影響

本日時点で社内調査が継続中であり、当社による決算作業及び会計監査人による本件を受けた追加的な監査等手続に相応の日数を要することが見込まれるため、関係当局とも協議しながら、2024 年 3 月期有価証券報告書の提出期限延長申請を検討しております。延長申請については、方針が決まり次第、速やかに開示いたします。

3. 2024 年 3 月期業績への影響

当社は、5 月 10 日付で「2024 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」を開示しておりますが、上記「1. 調査の進捗」に記載のとおり、あるべき数値の算定が完了しておらず、具体的な影響額については、あるべき数値の算定後、当社連結財務諸表等の作成の過程において、会計監査人との協議及び監査をもって確定し、お知らせする予定です。

4. 過年度の有価証券報告書等への影響

上記「1. 調査の進捗」に記載のとおり、当社は、当社連結会計年度の 2023 年 3 月期の期首残高以降、2024 年 3 月期までの影響を検証するため、本件子会社における会計年度の 2021 年 12 月期から 2023 年 12 月期を社内調査対象期間としているところ、これまでの社内調査により、あるべき数値の算定が完了しておりませんが、当社連結会計年度の 2023 年 3 月期の有価証券報告書等への影響が出る可能性があります。具体的な影響については社内調査の終了後に確定次第、お知らせする予定です。

5. 今後の見通し

社内調査の途中で開示すべき重要な事項があった場合には、速やかに公表するとともに、社内調査が終了しましたら速やかにお知らせいたします。

このたびは、株主・投資家の皆様をはじめ関係者の皆様に多大なるご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、深くお詫び申し上げます。

以 上